

おごせ 教育 Pick Up

越生小学校



越生町では小中一貫教育を推進しています。6年生では、越生中学校の先生に英語の出前授業をしていただきました。1月の出前授業では英語の歌やゲームだけでなく、タブレットも使って楽しい授業をしていただきました。

梅園小学校

1月9日(水)に5・6年生がときがわ町の上サ(カサ)スケート場で、スケート教室に参加しました。一人一人が思い思いに追いかけてっこをしたり、イスののった友達を押したりする中で馴れていきます。最初はぎこちない動きの子ども達もすぐに順応し、次第に滑れるようになりました。梅園小ならではの楽しい体験ができました。



越生中学校



12月7日(金)に、校内ロードレース大会を開催しました。寒さや北風にも負けず、元気に走る越中生。新記録や歴代記録も数多く生まれ、レベルの高い大会となりました。寒い中、多くの方に声援をいただいたお陰です。御声援ありがとうございました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



「志研究論文発表会」
S特進コースでは文系・理系グループに分かれ、研究論文発表を通じて能動的な学習活動に取り組んでいます。
埼玉県は所沢市など日本の航空発展と密接な関係があり、多くの飛行場が点在しました。そのため陸軍航空士官学校が建設され、戦争とも深く関係することになりました。文系グループは「身近な地域の戦争」をテーマに戦中・戦後の

ズームイン教育259

充実の 体験型プログラム

武蔵越生高等学校



このような体験型学習を通じて、主体的に学習する姿勢を身につけていきます。

また、実際に細胞の染色をするなど実験や観察を行うことで、単なる知識としてではなく、今後どのように勉強していくかといった「勉強に対する意識」が変化したように感じます。

「人々の生活の変化」を含め研究に取り組みました。

「高大連携プログラム」
東洋大学理工学部で「i p s細胞やがん細胞を観察しよう」というテーマで、講義と実験を行いました。i p s細胞やES細胞の仕組みに関する講義に、生徒は目を輝かせていました。

越生浪漫

No.121

医聖 田代三喜



田代三喜木像（茨城県古河市・一向宗蔵）

図書館コーナーで紹介しましたが、日高市にお住まいの入江武男さんが伝記絵本『田代三喜ものがたり』を出版され、越生町の小中学生全員に寄贈していただきました◆埼玉県指定旧跡「田代三喜生地」に指定されている吉澤益男さんのお宅には、三喜の生涯を簡潔にまとめた解説板が建てられています。

「医聖 田代三喜



埼玉県指定旧跡「田代三喜生地」(越生町古池)



田代三喜顕彰碑（越生町堂山・最勝寺）

玉県の文化財保護委員会委員長稲村担元博士から贈られた扇に田代三喜の生家なりのお墨付きあり

略歴

この地越生町古池の田代に生まれ、十五歳にて医学を学ぶべく僧となり、長享元年（一四八七）、今から五百年前二十三歳の時、遣明使に従い明国に渡り諸州を歴訪、医学を研鑽、蘊蓄を究め、ときの名医月湖に師事し、金の李東垣、元の朱丹溪の二大医学を修得し、帰朝後、その学術を国内に伝え、永正六年（一五〇九）、四十五歳の時、古河公方足利政氏の侍医となる

享禄四年（一五三二）十一月、三喜六十七歳の時、曲直瀬道三、京都より来たり門に入る、

当年二十五歳、後に將軍家の侍医となる。三喜は常にその蘊蓄を傾け、指導啓発に努め、病床にありても、なお、口伝えしてこれを授け、道三、感涙にむせび、涙で墨をすりしという。題して、これを涙墨紙という説あり

三喜ありて道三、道三ありて三喜あり……と

昭和六十一年三月吉日
建立者
十四代当主 吉澤幸一

田代三喜は、それまで長い間停滞していた日本の医学界に、最新の明国の医学を伝え、実証的な漢方医学の礎を築きました。その教えは弟子の曲直瀬道三によって広められ、道三流医学として当時一世を風靡しました◆入江さんのご高志に深謝し、子どもたちとともに、まさに太田道灌と同時代に活躍した郷土ゆかりの偉才の再評価と顕彰に努めてまいります。

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.82

アカタテハ

「チョウ目タテハチョウ科」

アカタテハの食草は、道端に生えるカラムシやヤブマオです。幼虫が作る袋状の巣は、葉裏が白いことからよく目立ち、中の幼虫はたくさんの突起でトゲトゲですが、ヒトを刺すことはありません。ときには、巣内で蛹になっています。幼虫は頻繁に見かけるのに比べ、成虫の発見は比較的少ないです◆栃木県での、春に産卵された世代（第一世代）の調査では、337卵の中から成虫になったのは4個体でした。卵期から蛹期まで、それぞれの時期に様々な要因により死亡するのですが、これは他の蝶の場合も同様です◆第1回目の成虫（第一世代成虫）は5月に羽化し、以後10月まで約3回（3世代）をくり返します。埼玉



アカタテハ成虫と幼虫及び幼虫の巣（右）

玉では成虫で越冬しますが、南九州では幼虫で越冬することもあります。かつて、筆者も鹿児島市の城山で、真冬にイラクサを食べている幼虫を観察したことがあります◆本種の訪花で印象的だったのは、今から50年ほど前の1969年1月27日、北浦和駅に近い花屋の店頭で、サクラソウの一種（プリムラ・メラコイデス）に訪花していた姿です。春にはウメやアセビの花に、夏にはカフトムシやクワガタが集まるクヌギなどの樹液に、秋にはソバやマリーゴールド、キクの花などに飛来します。この多様な蜜源を利用するのが本種の特徴です。

（巣瀬 司）